

Title	技術の事業化のための新たな社会インフラ構築戦略 (<ホットイシュー>日本型技術経営システムのダイナミ ズムの解明(3))
Author(s)	旭岡, 勝義
Citation	年次学術大会講演要旨集, 19: 401-404
Issue Date	2004-10-15
Type	Conference Paper
Text version	publ isher
URL	http://hdl.handle.net/10119/7106
Rights	本著作物は研究・技術計画学会の許可のもとに掲載す るものです。This material is posted here with permission of the Japan Society for Science Policy and Research Management.
Description	一般論文

○旭岡勝義（社会インフラ研究センター）

はじめに

1. 事業戦略の変化と重要戦略要素
2. 社会インフラの変遷
3. 社会インフラと事業開発との新たな接点
4. 社会インフライノベーションの本質
5. 今後の戦略展開のための社会インフラ構築戦略

最後に

はじめに

技術のブレークスルーが目覚しくなった今日、事業化の芽は多く育ちつつある。

しかしながら、幾多の事業成功のためには、多くのバリエーションが存在する。

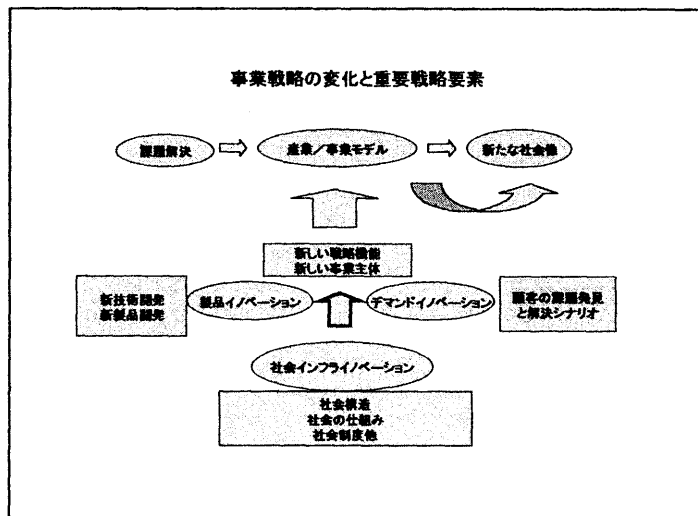
そのうち最も厄介なものが、事業化に対応する社会インフラの未整備もしくは社会インフラが伴わないために、ますます新しい事業化の課題解決への意欲の減退現象が起きている。税制や仕組みや制度の課題以上に、社会インフラのイノベーションが起こらないための事業化の困難性である。

また融合技術を活用したり、新たなサービス事業を提供する事業化は、社会インフラの遅れによって、次第に事業化の基盤を確立する事が遅れて行く。

これらの諸問題を解決する新しい社会インフラ構築戦略こそが重要なのである。

1. 事業戦略の変化と重要戦略要素

事業戦略は、これまで、製品開発の競争優位性によって、新しい市場開発や事業開発を強化する製品イノベーション戦略が主流であったが、顧客の変化構造を盛り込み、顧客の課題を如何に戦略要素として解決機能にするか等デマンドイノベーションの戦略へと移行している。しかしながら、産業として、事業として確立するためには、社会インフラにおけるイノベーションと連動し、またはその動向を組み込んだ戦略策定が重要になっている。社会構造や社会の仕組みや社会制度のイノベーションが遅れれば、新たな事業や産業の促進において、成立基盤のためのバリエーションとなり、また成立条件が欠如するため脆弱な基盤の上での事業化になるとリスクは拡大する。一方、グローバル化の進展の中で、国際的な競争力も劣位となる期間が長引き、産業集積のできないまま、重要なノウハウや重要な課題解決能力を持つ人材が育成できないような状態が続けることになる。あるべき社会に向けての課題の解決が産業化や事業化に及ぼす影響は計り知れない。

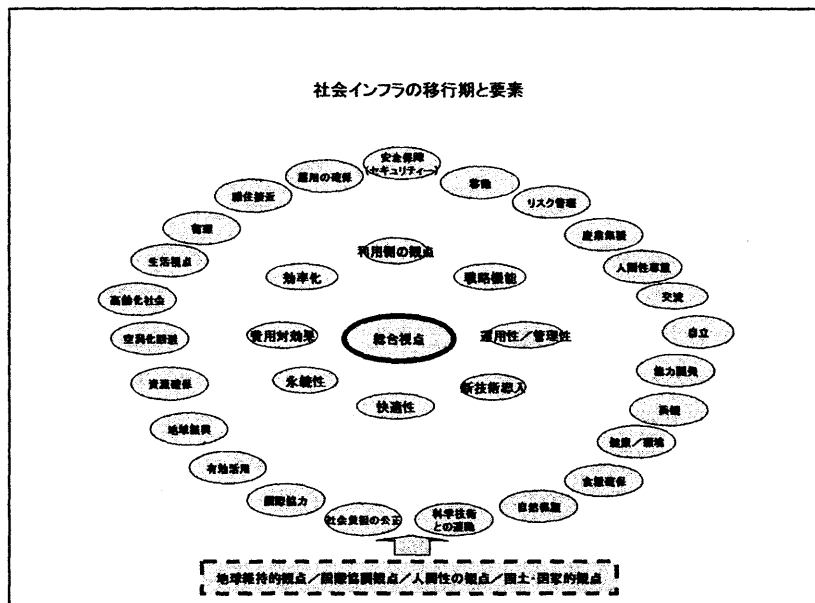


2. 社会インフラの変遷

今後の新たな社会環境は、

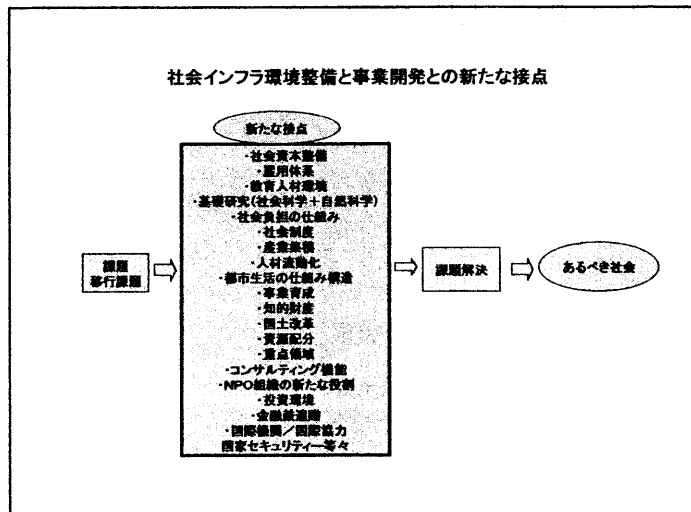
- ①情報社会から知識社会産業
- ②質的充実した生活機能や心に関する産業
- ③高付加価値ソフト&サービス産業
- ④社会負担バランスの取れた社会構造への移行産業
- ⑤高齢化少子化社会対応産業

等の産業成立のためのインフラ整備が求められる産業への移行期でもある。



3. 社会インフラ環境整備と事業開発との新たな接点

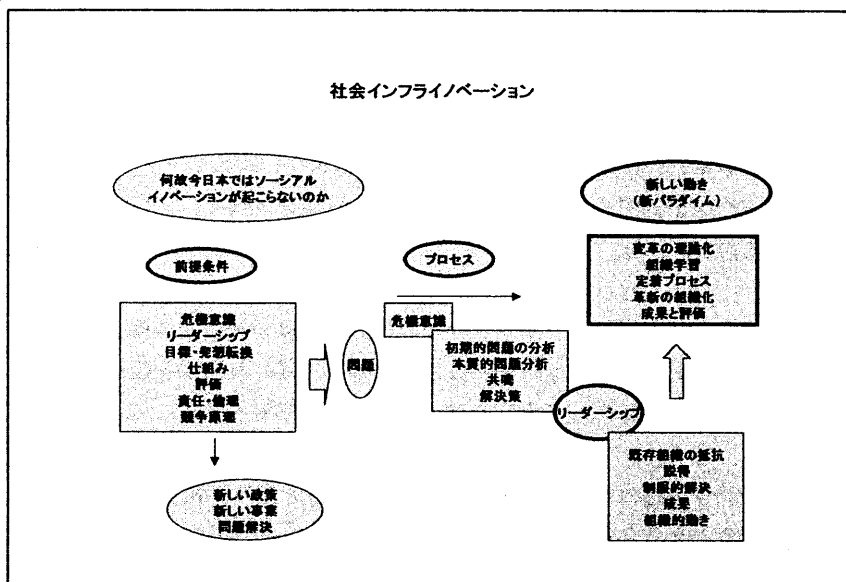
こうした社会構造に向けてのインフラが構築されるべき時代において、事業開発との新たな接点は、産業統合政策としてますます重要になっている。



当然統合的なイノベーションを実現するためには、これらの総合政策や相互的な仕組みが検討され実行されなくてはならない。

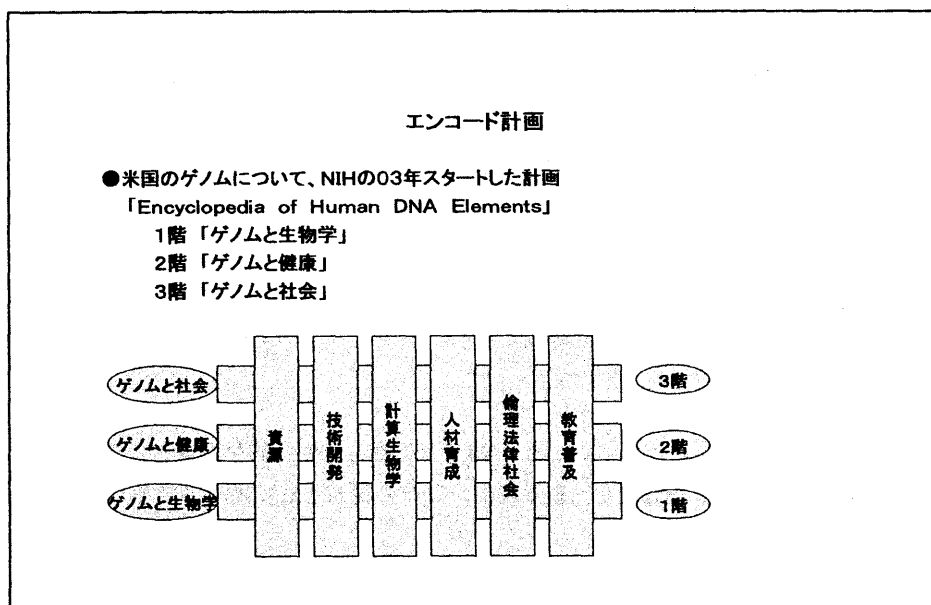
4. 社会インフラインノベーションの本質

社会インフラのイノベーションには、「競争と評価」を社会的な体質として再構築する必要があり、新たな視点を分析し、新たなインフラの視点として定着させることが必要である。



5. 今後の戦略展開のための社会インフラ構築戦略

今後の成長産業／成長事業は、既存の社会インフラの上に構築できる部分も当然可能な事業範囲もある。しかし、成長産業／成長事業の基盤は、技術開発のみではなく将来の社会構造等を統合的に計画していくことが戦略的重要になっています。例えばゲノム等に関し、「米国のエンコード計画」は、ゲノムの百科事典を作る計画である。ここには、技術のみではなく、社会との計画やその影響等が検討される計画になっている。次世代のテクノロジーは、バイオテクノロジーにしても、ナノテクノロジーにしても社会構造等インフラの変革が予想される。



このために、早急に「Social Infrastructure Innovation Program」等科学技術産業化事業化の政策ツールのシンクタンク集団を形成し、政策構築や未来構図及び重要度別インフラの評価を実施し、統合的なインフラ構築戦略を強化する必要がある。

最後に

我が国の産業集積や技術集積は、次世代の社会構築の貢献を統合的に検討し、創造豊かな知的集団知的人材としての強化を行い、技術成果が、世界の社会文化生活の発展に寄与しうる展開を可能にするための、基本的な考え方や科学哲学等を構築して、いくことが期待されている。

新たな社会インフラ構築のための論議が、本質的な課題を生み、課題解決に向けて、強力なツールを提供できる「知の場」が確立される事を望みたい。